タイトル：2023 年度 教育セミナー（第 19 回）
日時：2023 年 9 月 21 日（木）～24 日（日）
場所：東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 3 階大会議室（303）

「独裁の政軍問題論：イランとエジプトにおける軍の経済活動に関する一考察」
伊藤慎一郎（広島大学大学院・博士課程前期）

本セミナーでは、昨年度から引き続き、修士論文の構成や調査内容について報告・発表させていただきました。運営に携わってくださった AA 研、スタッフの皆様のご尽力とご協力に心より感謝申し上げます。この 4 日間を通じて私が得られた知見と感想は以下の 3 点に要約できます。

第一に、一次資料に最前線で向き合う地域研究者の方々と議論し、事例や分析の妥当性を確かめる機会になりました。私は政治学をディシプリンとするため、長期間のフィールドワークや一次資料分析ではなく、二次資料に基づいた比較分析を採用しています。その方法論の特徴から研究では、事実関係の整理と分析枠組みの構築に苦労し、事例分析と分析枠組みの妥当性について疑問を持っていました。そういったジレンマを抱えていた中で本セミナーに参加し、セミナーでは現場目線に立って研究を行う地域研究者、大学院生と 4 日間にわたって議論を行うことで、研究の妥当性について再検討する機会となりました。今後も自身のディシプリンの強みを活かしながら新たな発見を目指しつつ、地域的な文脈を捉えた研究を行えるよう精進したいと考えています。

第二に、先生方の講義を通じて、今後どのような視座から研究プロジェクトを組み立てていくのか、社会的意義と学術的意義のバランスをどのように保つのか、について多くの知見を得ることができました。ご自身の研究成果を織り交ぜつつも、研究の面白さと意義、研究者として歩んできた道のりなどが随所に見られたセミナーは、研究者を目指す私としても参考になるものばかりでした。今後は本セミナーで得た知見を取り入れ、社会的にも学術的にも貢献できる研究者を目指すべく精進したいと考えています。

最後に、本セミナーでは時折、厳しいコメントもいただきましたが、同時に研究の後押しもいただきました。「方法論や技術面での改善点はあるものの、全体として重要なテーマであり興味深く聞かせてもらった」というコメントをいただくことができ、大変光栄でした。苦悩と苦労の多い研究生活でしたが、いただいたコメントは今後の研究生活の活力となりました。

総じて本セミナーは、修士論文に対するフィードバックをいただくとともに、研究への向

き合い方を再考させられる機会でした。受講生が増えつつあり、より盛り上がりをみせる中東☆イスラーム教育セミナーが、今後も継続して開催されることを切に望みます。最後になりましたが、今回運営に当たってくださったAA研、スタッフのみなさま、本当にありがとうございました。今度ともご指導いただきますよう、どうぞよろしくお願いいたします。